

第11回「狭山市民芸術祭」を終えて

実行委員長 横山美衣

団体による発表の他に、写真やオブジェ・生け花でテーマを表現。企画公演は鑑賞機会の少ない「江戸写し絵と影絵人形劇の世界」を採りあげた。小学生以下を無料とした事で小さな子どもが多かったが、劇団みんな座の公演は子どもも大人も惹きつけ、公演中騒いだり泣き出す子は一人もいなかった。終演後の「江戸写し絵体験コーナー」には160名以上の希望者が、本物の道具を使用して貴重な体験をした。

例年の課題であるが、限られた資金で意義ある芸術を提供しようとする「人」にかかる負担が非常に大きい。多くの会員の身を粉にした汗により何とか維持されているが、知恵を結集し工夫をしないと息切れする可能性がある。問題点を具体的に洗い出し、今後も優れた芸術を、息長く提供し続けてゆける方法を模索したい。

市民の皆様におかれましては、今後ともご理解とご支援を宜しくお願い申し上げます。

舞台公演 -- 第11回・狭山市民芸術祭から --



劇団みんな座「江戸写し絵と影絵人形劇の世界」



舞台「世代を超えて」

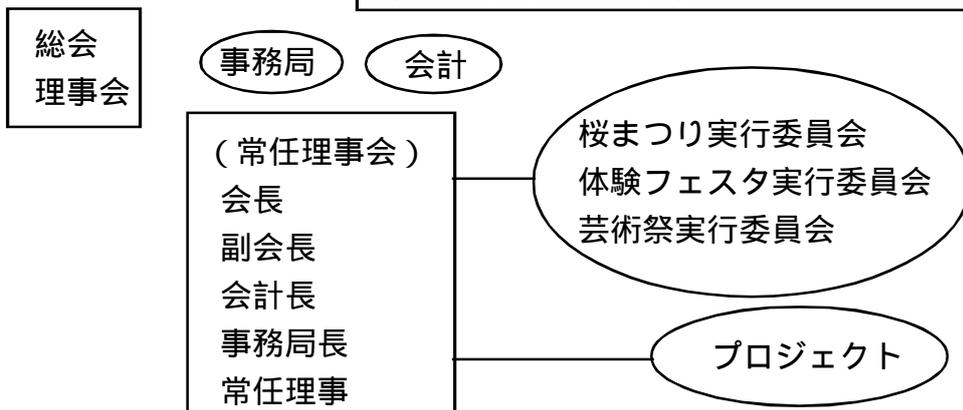
平成23年度から新たな組織に

狭山市民文化団体連合会では、理事の負担軽減と組織の活性化のため、長年の懸案である組織改革について取り組んできました。平成23年度の総会を経て、本年度から実施される予定です。

【組織改革（案）の要点】

- ・ 役員を会長、副会長2名、会計、事務局長、常任理事5名の計10名とし、理事の中から互選
 - ・ 従来の運営委員会にかわる常任理事会を設け、会の運営をつかさどる
 - ・ 事務局を置き、渉外、広報、書記、庶務業務をつかさどる
- （従来の専門委員会は廃止）

（新組織図案）



（文責：広報委員会）